

報道関係者 各位

2026.6.4  
< 配信枚数 2 枚 >

## ■開催案内■

### 立命館土曜講座 2026 年 7 月テーマ

#### 「子どもの声を聴く」社会を目指すために

開催日程 : 2026 年 7 月 4 日 (土)・18 日 (土) 10 時 00 分～11 時 30 分

開催方法 : ハイブリッド講座 (末川記念会館・Zoom ウェビナー)

2026 年 7 月の立命館土曜講座は、立命館大学人間科学研究所の企画として、ハイブリッド形式 (末川記念会館・Zoom ウェビナー) で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

## 記

### ■立命館土曜講座 2026 年 7 月テーマ

#### 「子どもの声を聴く」社会を目指すために

(1) 地域で守る！子どもの命～聞こえますか？子どもの声なき声～

日時 : 2026 年 7 月 4 日 (土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 : 国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター 小児科・育児支援対策室長 木下 あゆみ

(2) 専門性に基づいた「あなたの声を聴かせて」を目指して

日時 : 2026 年 7 月 18 日 (土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 : 立命館大学産業社会学部 教授 石田 賀奈子

開催方法 : ハイブリッド講座 (末川記念会館・Zoom ウェビナー)

内 容 : 別紙参照

聴 講 料 : 無料

定 員 : 末川記念会館 180 人、Zoom ウェビナー 400 人

※実施前日 12 時 00 分までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法 : 立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。

<https://www.ritsumeai.ac.jp/doyo/>

主 催 : 立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他 : 文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先: 京都大学記者クラブ

### ●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当: 尾崎・堀

TEL.075-465-8224

## 別紙

### ■立命館土曜講座 2026年7月テーマ

「子どもの声を聴く」社会を目指すために

(1) 地域で守る！子どもの命～聞こえますか？子どもの声なき声～

日時：2026年7月4日(土) 10時00分～11時30分

講師：国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター 小児科・育児支援対策室長 木下 あゆみ

講師による内容紹介：

子どもが助けを求められないまま、つらい状況に置かれてしまうことがあります。家庭の中で起きることは外から見えにくく、子ども自身が「助けて」と言えないことも少なくありません。だからこそ、地域に暮らす私たち一人ひとりが、子どもの小さな変化や違和感に気づくことが大切です。

この講座では、子どもが発しているかもしれない「声なき声」にどう気づき、どう守っていくかを、小児科医の立場からお話します。たとえば、元気がない、服装がいつもと違う、ケガの説明が不自然など、日常の中で気づけるサインがあります。また、「気になるけれど、どうしたらいいのか分からない」というときに、地域の相談窓口や支援機関がどのように動くのか、通報や相談がどのように子どもを守る力になるのかを、子どもを見守る私たちは知っておく必要があります。

地域の大人が少しだけ気にかけて、耳を澄ませることで救える命があります。子どもたちの未来を守るために、私たちができることを一緒に考えていきましょう。

(2) 専門性に基ついた「あなたの声を聴かせて」を目指して

日時：2026年7月18日(土) 10時00分～11時30分

講師：立命館大学産業社会学部 教授 石田 賀奈子

講師による内容紹介：

2024年の児童福祉法改正により、子どもの権利を守るための環境を整えることが、各自治体に求められるようになりました。報告者は、「子どもの意見をきちんと聴き、尊重すること」、すなわち意見表明権の保障に着目しています。

子どもの意見表明権は、「子どもの権利に関する条約」に示された「参加する権利」の一つであり、子ども自身が自分の考えや気持ちを表明できることを意味します。近年では、児童相談所の一時保護所や児童養護施設など、社会的養護の現場で、この権利を支える取り組みが各地で進められています。

18歳までに家庭で経験する強いストレスやつらい体験は、「幼少期逆境体験(ACEs)」と呼ばれ、成人後の心身の健康に大きな影響を及ぼすことが分かってきました。児童養護施設などにつながる子どもたちは、こうしたACEsを重く経験している場合が多く、支援の緊急性や重要性がとりわけ高い子どもたちです。

しかし現在、「子どもの声を聴く」ことを担う専門性や、その担い手をどう育てるかという議論の中には、「当事者性」や「アドボカシー文化」といった言葉が先行しています。今一度、ソーシャルワークや心理的支援の専門性について検討が必要です。

社会的養護を経験した子どもが、安心を取り戻し、回復していくために必要な「声を聴く」とは、どのような専門性なのか。本講座では、その意味を改めて考えてみたいと思います。

### ■立命館土曜講座 <WEBサイト> <https://www.ritsumeai.ac.jp/doyo/>

1946年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。